

科目名称：	乳児保育Ⅰ	
担当者名：	米川 祥子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
近年、乳児保育の需要の高まりや乳児期の育ちの重要性が確認され、乳児保育への深い学びが求められてきている。「乳児保育Ⅰ」では、初めて乳児保育を学ぶ学生が、乳児期は人間として成長する基礎づくりとして非常に重要な時期であることを理解し、将来、乳児の育ちに携わる者としての責任と魅力を感じてもらいたい。		
授業の達成目標・到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●0・1・2歳児の心身の発達を理解する。 ●0・1・2歳児保育の対応を知る。 ●一人ひとりの育ちを大切にす視点をもつ。 		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)			60	40	100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 臨床心理士（幼児相談）	《経験年数1》 14年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 乳児保育とは—歴史と現状	乳児保育に関連する社会情勢の情報収集をしておく	30分
第2回 乳児を預かる者としての心構え—3歳児神話を知る	自らの育ちの情報収集をしておく(親から)	30分
第3回 「乳児」を知る ①赤ちゃん	教科書全体を眺めておく	10分
第4回 「乳児」を知る ②0歳児の心身の発達	教科書内0歳児の項目を読んでおく	10分
第5回 「乳児」を知る ③1歳児の心身の発達	教科書内1歳児の項目を読んでおく	10分
第6回 「乳児」を知る ④2歳児の心身の発達	教科書内2歳児の項目を読んでおく	10分
第7回 抱っこ・おむつ替え(実技)	教科書該当ページを読んでおく	10分
第8回 「親子ふれあい体験」事前学習—保護者支援	教科書該当ページを読んでおく	10分
第9回 「親子ふれあい体験」実施	乳児とその保護者に対面するにふさわしい恰好を考える	10分
第10回 保育実習ふり返り—応答的対応について「愛着関係」	教科書該当ページを読んでおく	10分
第11回 アタッチメント	教科書該当ページを読んでおく	10分
第12回 乳幼児期の心理発達—応答的対応について「承認欲求に応える」	教科書該当ページを読んでおく	10分
第13回 言葉の発達	教科書該当ページを読んでおく	10分
第14回 (保育指針より)0・1・2歳児保育	保育指針該当ページを読んでおく	10分
第15回 乳児保育の重要性(乳児保育観をまとめる)	これまでの授業内容を見返しておく	30分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業への積極的態40% 提出物60%

課題に対するフィードバック

各課題に対して、その都度コメントシートでフィードバックする。
最終課題は、希望者には返却する。

教科書・参考書

「乳児の発達と保育～遊びと育児」 エイデル研究所
「はじめて学ぶ乳児保育」第二版 同文書院